

「笑顔で子どもと向き合える明日のための放課後!!」に取り組んだ実践
安八町立名森小学校

1 目標

本校に働き方推進教師2名が配属された。そこで、この2名を高学年の算数と理科の専科として週2時間位置づけた。昨年度まで高学年専科として担当していた町費少人数指導員を、今年度は中学年に配置した。これにより、全教職員が超過勤務時間を減らして業務を遂行できる体制を整え、時間外勤務時間が45時間未満になることを目指した。

また、本校は、全教職員が笑顔で子どもに向き合えることを大切にしているため、放課後の諸会議を見直し、「笑顔で子どもに向き合える明日のための放課後」を目標に取り組むこととした。

2 加配教員に係る実施状況

加配措置状況		実施 教科	実 施 状 況					
非常勤	週時間		5 年 生			6 年 生		
			実施	学級	時間	実施	学級	時間
1	9	理科	○	1	3	○	2	6
2	10	算数				○	2	10

3 実践の内容

(1) 加配教員や外部人材の具体的な活用について

5年生への進級と同時に学級数減、児童数激増となり、学級担任への負担増と児童一人一人への学習支援や心のケアにより一層の充実が予想された。

※R2 5年生 80人 2学級 各40人 (R1 4年生 82人 3学級 各27人・28人)

そこで、5年生の学級担任や児童への支援体制を工夫して、次のように人材を活用した。

- ①教科担任制 ・・週12 理科・外国語・家庭科・書写等
- ②少人数指導 ・・週10 算数
- ③児童生徒支援 ・・週 5
- ④スクールサポートスタッフ ・・週12
- ⑤支援員 ・・4年生支援と兼務

6年生の支援体制の工夫

- ①教科担任制 ・・週 3 音楽等
- ②少人数指導 ・・週10 算数

(2) 教員の空き時間数確保について（一人あたりの平均）

6年担任 9.3h	推進教師・・・8h	教科担任・・・1.3h
5年担任 4h	推進教師・・・1.5h	教科担任・・・2.5h
4年担任 4h	推進教師・・・0	教科担任・・・4h (理科・外国語等)
3年担任 3h	推進教師・・・0	教科担任・・・3h (理科・音楽等)

(3) 笑顔で子どもを迎えるための工夫

①会議の開始時刻と終了時刻の厳守で、教員のゆとり確保

会議の開始時刻を厳守するための下校時刻厳守と下校指導の工夫と改善をした。

会議終了時刻を決めることで、教員が会議後から退校時刻までに計画的にゆとりをもって残

務整理をすることができた。

②空き時間確保で、不登校傾向児童やいじめ認知時の生徒指導體制の充実

学級担任の空き時間を確保することで、一人一人に寄り添った個別の対応をできる場を設けた。また、家庭訪問や放課後登校の児童と担任との信頼関係づくりに努めることができた。

4 評価結果

(1) 時間外勤務について

	時間外勤務 (時間 分)		45時間超 (人)	
	令和元年	令和2年	令和元年	令和2年
9月	65時間55分	49時間50分	20人	19人
10月	57時間41分	55時間41分	19人	20人
11月	54時間12分	50時間09分	17人	16人
12月	44時間26分	40時間19分	13人	10人

(2) 45時間超の分析と検証結果について

- ① 45時間を超えた主な原因・理由を各自が自己分析した後に、管理職が所属としての改善策を伝えて実践できているかを見届けた。その結果、前月に続いて45時間を超える職員の数は減少してきている。
- ② 本当に必要な教材研究や資料作成のみを限られた時間内に行う職場の雰囲気が高まった。

(3) 工夫改善点について

令和2年度の出勤時刻と退校時刻の数字は、より正確なものとなるよう工夫した。時間外勤務を管理(自己管理)するために、昨年度同様に Excel シートに出退勤時刻を入力する点は同じである。本年度は、使用する Excel シートと入力の方法を以下のように変更した。

- ① デスクトップとスタートアップへのショートカットの登録を行うことで、入力シートを開く手間が省けるようにした。出勤時刻と退校時刻を正確に入力する職員が増えた。
- ② 個別シートと集計シートを関連付けることで、管理職が全員分のデータを入力する手間を省き、働き方改革をした。個別シートで、自己管理をすることが難しい職員や入力忘れの職員には管職が声をかけることで、正しい時刻を毎日入力するように改善されてきた。
- ③ 一日の勤務時間が3時間を超えた場合は、セルが赤くなり、超過勤務の理由や改善策を自己管理できるシートに工夫した。45時間超事後検証を月末に改めてする必要はなく、赤いセルに記入することで、毎日の働き方を改善することができた。

5 成果と課題

(1) 成果

- ・ 働き方改革推進教師2名が配属されたことと、県費・町費非常勤講師のおかげで、学級担任の空き時間を高学年の職員のみならず本校職員の中学年の職員にも確保できた。
- ・ 空き時間には、教材研究や宿題の点検などを丁寧に行った。また、不登校児童対応の時間として毎週位置づけることで、保護者との教育相談も充実させることができた。

(2) 課題

- ・ 教務主任や教頭の空き時間を確保することで、校務に従事する時間や外部人材の効果的活用をコーディネートする時間を保障する。
- ・ いじめ認知後の対応や不登校傾向児童への教育相談体制を確立することで、学級担任の空き時間を充実させる工夫をする。